

目次	・平成29年度の取り組みについて	・・・1	・在宅医療部門のご紹介	・・・5
	・新任のご挨拶	・・・2	・新入職員紹介	・・・6
	・副看護部長就任のご挨拶	・・・3	・新入職員紹介	・・・7
	・内視鏡室について	・・・4	・外来診療表	・・・8

## 平成29年度の取り組みについて



病院長 豊永 哲至

平成29年度も既に3ヶ月過ぎました。新年度になると社会全体で多くの事が変わりますが、当院でも昨年度末から新年度にかけて様々な変化がありました。以下に当院の診療に関する主な変更点を御紹介します。

### 1) 人事異動と外来診療の変更

これまで23年間当院で院長をしておられた矢野智彦先生が3月末に退職されました。また、腎臓内科の小野真先生が熊本大学へ帰られ、交代として入江亮輔先生が赴任されました。外来診療に関しては、矢野先生が担当していた糖尿病・代謝・内分泌内科は、月曜の外来は熊本大学糖尿病代謝内分泌内科の山田沙梨恵先生、金曜は総合内科として沖尚史先生が担当します。消化器科は木曜の外来が、第2と4週は済生会消化器内科、その他の木曜は総合内科として石田隼一先生が担当します。消化器科は熊本大学消化器外科より新たに医師派遣が始まりましたので金曜にも外来診療が可能となりました。循環器科、腎臓内科、神経内科、放射線科の外来診療につきましては昨年度と変更はありません。

### 2) 医療機器と入院設備の更新・導入

医療機器に関しては、最新鋭の内視鏡システムが3月から稼働しています。胃カメラ、大腸カメラの診断能力と治療能力が向上しました。また、最新の超音波診断装置が3月に導入され稼働しています。肝臓・胆嚢・膵臓・脾臓・腎臓などの腹部臓器だけでなく血管病変の診断能も向上しています。これらの機器の導入により消化器疾患や循環器疾患にに対して、より質の高い医療の提供が可能となりました。

食事は食事療法と言われるように重要な治療法であり、また、美味しい食事を頂くのは入院生活での大きな楽しみでもあります。このため、温かいものは温かく、冷たいものは冷たいまま食事をしていただけ

るように1月より温冷配膳車の使用を開始しました。食器も対応のものに変更し、これまでの食器よりも食べやすくなっています。食事に関する満足調査でも良い評価を得ています。

### 3) 病院間ネットワークシステム

現在の専門化した医療では、急性期病院からかかりつけの診療所まで複数の医療機関を受診している方も多くおられます。個々の病院での検査データや情報をお互いに利用することが出来れば重複する検査も無くなり、何度も病状を説明する必要も無くなります。このため、「くまもとメディカルネットワーク」という情報共有システムを熊本県医師会が中心となり普及させています。当院も3月からこのシステムに参加しました。現状では出来る機能に制限がありますが、次第に改善され必要不可欠なシステムになると思います。

### 4) 健診部門

健診部門では、4月より保健師が2名に増えました。健診で見つかった問題点を確実に改善していくために専門職によるお手伝いをしていきます。また、乳がん検診の機器が導入される予定となっています。女性の放射線技師が担当することで検査を受けやすいように配慮する計画です。行政と協力して女性が罹患する癌の第1位である乳がんの早期発見に寄与して行きます。

4月から病院の隣に菊池市亙より医師会事業である在宅医療部3事業(訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、デイケアセンター)が移転しました。医療と介護の連携を更に深めることで全人的な医療を提供していきたいと考えています。

## 新任のご挨拶

腎臓内科 入江 亮輔



平成29年4月から腎臓内科として赴任することになりました、入江亮輔と申します。

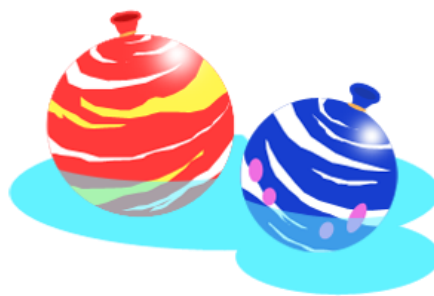
私は熊本県熊本市の出身で、平成26年に大分大学医学部を卒業後、初期研修医として熊本で勤務しました。熊本大学医学部附属病院および熊本市市民病院での2年間の初期研修を終え、平成28年4月に熊本大学医学部附属病院腎臓内科に入局いたしました。その後1年間熊本大学医学部附属病院で勤務し、今年度より菊池郡市医師会立病院へ赴任しました。高校、大学は県外に出ましたが、生まれも育ちも熊本であり、菊池市を含め、熊本県の医療に腎臓内科医として携われることを大変嬉しく思っております。一人の医師として腎疾患だけでなく、common diseaseと呼ばれる頻度の高い内科的疾患の診療を行っていければと思っております。

現在日本では約1,330万人、成人の約8人に1人が慢性腎臓病(CKD)と推測されており、新たな国民病とも言われています。CKDの発症やその進行には、高血圧や糖尿病、脂質異常症などの生活習慣病が強く関係するほか、肥満、食塩の過剰摂取、過度の飲酒、喫煙などの生活習慣も深く関係しています。CKDの初期は自覚症状がなく、ゆっくりと進行していきます。進行すると、浮腫や貧血、倦怠感、息切れなどの症状が現れ、さらに進行すると末期腎不全に至ります。またCKDは末期腎不全の危険因子だけでなく、脳卒中や心筋梗塞などの心血管疾患の強い危険因子でもあり、CKDは腎臓だけの問題ではなく、全身の血管系の問題として捉えることが必要になってきました。体調の変化に気がつけているだけでは早期発見は難しく、定期的に健康診断を受け、尿や血液の検査をすることが早期発見につながります。早期に治療を開始すれば、腎機能の低下を防いだり、遅

らせたりすることが可能な場合があります。また末期腎不全まで進行し、腎機能の回復が見込めない状態になっても、透析療法や腎移植といった腎代替療法があり、患者自身のQOLに合った治療を受けることができます。

現在の診療内容としましては、菊池郡市医師会立病院腎臓内科は昨年より私を含めて三人体制となりました。当院では外来診療だけでなく、末期腎不全に対し、血液透析療法を行っております。腎不全が進行し、透析療法が必要とされた患者様は、透析療法と一生の付き合いになりますので、透析室スタッフと協力しながら快適な環境作りを心掛けたいと考えております。また血液透析に必要なバスキュラーアクセス(内シャント)の作製や、長期的にシャントを使用するために狭窄や閉塞予防のための経皮的血管拡張術も行っております。

今後はかかりつけ医の先生方と密接に連携し、患者さんとのコミュニケーションを大切に、菊池の皆様のご健康や菊池地域の医療に少しでも貢献できるよう頑張りますので、今後ともよろしくお願い致します。



## 副看護部長就任のご挨拶

副看護部長 岩木 優子



平成29年4月1日に副看護部長を拝命いたしました。

昭和59年に当病院に入職し30数年、微力ながら、看護師として師長として自分の役割を果すべく、出産や育児等家庭生活との両立を図りながら取り組んでまいりました。また、病院移転に伴う新病院の建て替えや電子カルテ導入等への参画など、貴重な経験もさせて頂きました。

新病院移転後、平成25年から看護部には新たな教育体制が構築され、これまでの自分の看護を振り返る機会となりました。経験だけで看護実践を展開していたことは、いつしか患者さまの想いとズレに気づかず、自己満足に陥っていたという反省をする機会ともなりました。日常の看護実践を、ナイチンゲールの看護理論で裏付した実践の意味や価値を知ることは、患者さまの想いに立ち向き合う関わりに繋がっていたことを実感しました。これらの学びや経験は、患者さまに出会い看護する喜びに心が震える境地に立て、後にも先にも味わうことのない大きな実践の学びでした。今こそ真に、患者さまへの安心・安全な看護に繋げる管理に自信が持てるようになりました。50歳を過ぎて遅すぎたとは思いますが、やっと教育の必要性が理解できました。看護や介護の本分を理解したケアが提供できるよう、副看護部長として、看護師長を通しスタッフを支援し共に学んでいきたいと考えています。

後期高齢者の急増(2025年問題)など、医療・介護を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。時代の変化に見合った看護は、病院内に止まることなく、患者さまの退院後の生活を見据えて、地域の人々と継続的な支援ができるような取り組みが喫緊の課題だと考えます。

一方、当病院は菊池圏域の中核的役割があります。地域連携担当としての責務もあり、地域包括システムの定着、発展に参画できるよう努めていきたいと考えています。

当病院が、理念としている地域に愛される病院となるよう、今後も微力ながら看護部長を補佐し、取り組んでいきたいと思っております。今後も皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。



## 内視鏡室について

総合内科医長 石田 隼一



平成29年3月に、経年劣化に伴う内視鏡システムの変更を行い、オリンパス社製の最新のシステムを導入致しました。つきましては簡単ではありますが、当院の内視鏡の現状について紹介をさせていただきたいと思っております。

当院の内視鏡室は、内視鏡ブース2室にリカバリ（検査後、安静にしてもらう場所）、前処置室からなります。検査からリカバリまで、ベッドのままスムーズに移動することができるようにしております。必要に応じて鎮静剤などを使いながら、できる限り苦痛が少ないように検査が受けられるようにしております。鎮静剤については、ボーっと眠ったような状態で検査を受けることができるため、検査時の苦痛が軽減される効果が期待されます。その反面、一定の頻度で偶発症が報告されており、検査後、1時間以上は安静にする必要があること、また検査当日は車の運転ができませんので、使用の際は担当医と相談して決めていただいております。

検査内容としては、上部消化管内視鏡検査（胃カメラ）、下部消化管内視鏡検査（大腸カメラ）を中心に行っております。今回、炭酸ガス送気装置を導入。炭酸ガスは空気よりも体への吸収が早いため、大腸カメラ後の腹部膨満感や不快感を減らし、検査による苦痛を減らすことができるようになりました。また、経皮内視鏡的胃瘻造設、消化管ステント留置などといったレントゲンを使った透視下内視鏡は、放射線科内1室を利用して行っています。

検査は私が主に担当して行っております。その他、熊大消化器内科、近隣の医院の先生方に非常勤として応援いただいております。消化器内視鏡専門医をはじめ、経験豊かな医師にて検査を行っております。スタッフには臨床工学士1名、看護師3名がおり、うち2名は消化器内視鏡技師の資格を有しており、みなさんが安心して苦痛が少なく検査を受けられるよう手助けしております。

検査に使用する内視鏡は、NBIという画像強調、拡大内視鏡といった病変を拡大する機能を有したものを標準として使用しております。がんの増殖には、血管からの栄養補給を必要とするため、病変には多くの血管が集まりやすくなるとされており、その血管をより鮮明に観察しやすくする画像処理がNBIです。さらに病変を拡大観察し、表面構造や、血管構造などを観察することで、より精度の高い診断ができるようになります。

今回、新たに内視鏡治療器具として高周波装置、アルゴンプラズマ凝固装置を導入し、吐血や下血などに対する緊急内視鏡をはじめ、3月下旬より大腸ポリープに対する内視鏡治療を開始し、すでに10件程度のポリープ切除を行いました。ポリープ切除はおよそ2cm以下のポリープであれば内視鏡での切除が可能で、基本的に1泊2日での入院治療にて行っております。

当院でも最新の内視鏡装置、治療器具を導入いたしましたので、地域のみなさまの健康のために、お役に立てればと思います。

## 在宅医療部門のご紹介

在宅医療部顧問 河西 澄子



菊池郡市医師会立病院は平成24年10月に大琳寺に新設移転いたしました。在宅部門は引き続き亘の方で業務を行って参りました。この度、岩倉会長の医師会事業部門を近くに寄せたいとのご意向の下、平成29年4月1日病院北側に新設移転致しました。お陰様で、モダンで明るく、利用者様に優しい建物の中で快適に仕事をさせて頂いております。居宅介護支援事業所、訪問看護ステーション、デイケアセンターが同一建物になったことで、3部門の協力が得られやすく、初めてデイを利用される場合も顔なじみのケアマネや訪問看護師が顔を出すことで、利用者様の安心感に繋がっています。また距離と共に少し疎遠になりかけていた病院との連携も深まりつつあることを感じています。

現在在宅医療部職員は顧問、事務員各1名と居宅介護支援事業所にケアマネ7名、訪問看護ステーションは看護師8名・理学療法士3名、デイケアセンターは理学療法士4名(うち1名は育児休暇中)、作業療法士1名、看護職4名、介護職11名、送迎ドライバー2名です。居宅が約200名、訪看約70名、デイケア約120名の利用者様と契約を交わしておりますが、スタッフの充実を図り、さらに多くの利用者様に支援ができたかと考えております。

「地域の先生や関係機関と連携し、お一人お一人が大切にされている生き方や暮らし方を尊重した看護・介護を提供し、在宅で安全に安心してその人らしい生活が送れるように支援します」という理念の下、個々のスタッフが利用者様やご家族にしっかり向き合っています。最近は、

在宅での看取りを希望される方が増え、住み慣れた我が家で安らかに最期を迎えて頂くことやご家族のグリーフがより軽減できるように居宅・訪看が連携し支援を行っています。自分にできるだけのことをしてお見送りができたという気持ちはグリーフワークに大きく影響しているものと思われま。訪問リハビリはご家庭に訪問し状況を把握した上で40分間1対1で個人に向き合うことができますので、ご家庭での生活に最も必要な事からリハビリを受けることができます。

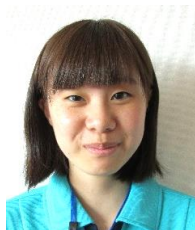
病院に近くなりましたので、デイサービスはデイケアに変更し、理学療法士、作業療法士を各1名増員し、レッドコード3基、コグニバイク1台、アシストウォーカー3台を追加しリハビリに力を入れて参ります。看護職が常駐していますので医療依存度の高い方も安心してご利用いただけます。また、寝たきりの方も入れる特殊浴槽を設置しました。

私たち職員一同、建物に負けないように、ご利用者様が在宅での生活を安全に安心して過ごしいただけますよう誠心誠意努力してまいりますので、これからもご指導宜しくお願い致します。



# 新入職員紹介

(平成29年3月～6月)



5F病棟 ケアワーカー

花田 真美

3月下旬から働いています。医療の仕事は初めてでわからないことだらけですが、教えていただきながら頑張っています。



医局 腎臓内科医師

入江 亮輔

菊池郡市の医療に貢献できるように頑張りますのでよろしくお願いいたします。



5F病棟 看護師

青木 香代子

初心に戻り頑張ります。



5F病棟 看護師

畠山 知恵

一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



5F病棟 看護師

上原 穂菜美

5年一貫高校を卒業し、4月より勤務しています。安心した入院生活を送っていただけるよう、愛あふれるケアの提供を頑張ります。



臨床検査科 保健師

藪 亜紗実

笑顔で明るく頑張ります。



4F病棟 看護師

紫垣 勝裕

一生懸命頑張りますのでよろしくお願いいたします。



臨床工学科 臨床工学技士

中島 健志

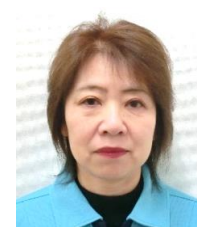
1日でも早く仕事を覚えて精一杯頑張りたいと思います。



臨床工学科 臨床工学技士

西村 裕子

患者さんや仕事に慣れるだけでなく、菊池の美味しい物や名物も覚えて菊池ライフを満喫したいです。



5F病棟 ケアワーカー

田中 美千代

患者様一人一人に安全・安心なケアを提供します。



臨床工学科 臨床工学技士

丸山 健斗

患者様に信頼され慕われる技士を目指します。よろしくお願いいたします。



透析センター ケアワーカー

梶原 美佐代

患者様に元気をもらいながら、笑顔で頑張ります。



5F病棟 ケアワーカー

岩村 美香

医療機関の仕事は初めてですが、先輩方が一から教えてくださって毎日勉強させていただいています。1日でも早く皆様のお役に立てるよう努力してまいります。



5F病棟 ケアワーカー

小木曾 幸子

経験も浅くわからないことだらけですが、一生懸命頑張ります。



透析センター ケアワーカー

石原 悦子

皆様のお役に立てるよう頑張ります。よろしくお願いたします。



5F病棟 ケアワーカー

黒田 敬佑

先輩方にご指導いただきながら頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いたします。



3F病棟 ケアワーカー

谷川 綾香

医療機関での勤務は初めてで戸惑うことも多いですが、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



4F病棟 看護師

時松 衣里

精神科勤務が長く、まだまだ分からないことばかりですが、一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



透析センター 看護師

藤岡 富久代

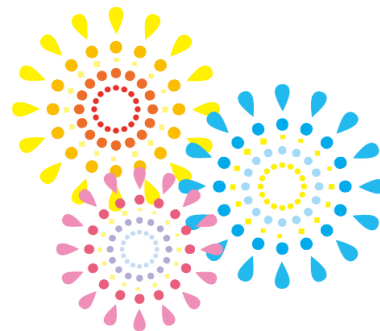
患者様と一日も早く信頼関係が築け、安心して透析生活が送れるように手助けのできる看護師を目指します。



外来 看護師

前田 綾

不慣れなことばかりで戸惑うこともあります。先輩方の御指導のもと頑張っていこうと思います。



## 編集後記

梅雨もようやくあけ、本格的な夏を迎えようとしております。この時期になると注意が必要なのは熱中症や脱水症状です。今年の8月は例年以上の猛暑になるとの報道もあり、より注意が必要かもしれません。こまめな水分・塩分の摂取、十分な睡眠、直射日光に当たらないなど注意しなければいけません。個人的には適度な運動をしながら体力をつけていこうと思います。皆様も予防や対策をしながらこの夏を乗り切りましょう。

## 菊池郡市医師会立病院 外来診療表

	午前/午後	月	火	水	木	金	土
総合内科	午前	松田 浩治 石田 隼一	沖 尚史	松田 浩治	石田 隼一 (第1・第3・第5)	沖 尚史	松田 浩治
糖尿病センター 代謝内分泌科	午前	山田 沙梨恵 (熊本糖尿病代謝内科) 古賀 荒太郎	豊永 哲至 田口 哲也	田口 哲也	豊永 哲至 信岡 謙太郎 (菊池中央病院)	古賀 荒太郎	田口 哲也
循環器内科	午前	予約	石坂 浩	古賀 敏	石坂 浩	熊大 循環器内科	古賀 敏
		新患	古賀 敏	石坂 浩	古賀 敏	熊大 循環器内科	石坂 浩
腎臓内科	午前				井上 秀樹 (熊大 腎臓内科)	緒方 智博	
消化器内科	午前				済生会熊本病院 (第2・第4)	熊大 消化器外科	
神経内科	午前			井上 泰輝 (熊大 神経内科)			
放射線科 (CT・MRI)	午前/午後	本田 伸	本田 伸	本田 伸	本田 伸 上谷 浩之 (熊大 放射線科)	本田 伸	上谷 浩之 (熊大 放射線科)

当院は「紹介型の病院」です。受診に際しましては、「かかりつけ医」の「紹介状」を原則必要とします。

ただし、救急の場合はその限りではありません。検査は予約制となります。

外来受付時間 8:00 ~ 11:30

救急患者の方につきましては、上記以外の時間にも対応しています。

## 【病院理念】

かかりつけ医の先生方と連携して、地域の皆さまに信頼され、愛される病院を目指します。

## 【基本方針】

- ・ チーム医療と地域連携に努めます
- ・ より良い医療の提供を目指し、研修・研鑽に努めます
- ・ 自己満足に陥ることなく、業務改善に努めます
- ・ 病院の健全な運営を目指します



一般社団法人 菊池郡市医師会

菊池郡市医師会立病院

〒861-1306 熊本県菊池市大琳寺75番地3

TEL:0968-25-2191 FAX:0968-24-5762 <http://www.kikuchi-hosp.com/>

発行責任者：病院長 豊永 哲至

